

「侵入防止柵」の設置で農作物を守る

1 侵入防止柵設置の目的

侵入防止柵の設置は、動物がエサにありつけなくするための嫌がらせ手段のひとつです。効果を高めるには、動物が農地や集落全体をエサ場として認識させないために、柵の設置の前に不要なエサの除去や周囲の潜み場を無くすなど、柵の外でも安心してエサにありつけない状況をつくること(守れる環境改善)が必要です。

また、柵の設置すれば対策は終わりではありません。すべての侵入防止柵において効果を継続するには、適正な設置とその後の管理作業が大きなガキとなります。

2 侵入防止柵設置のポイント

● 動物の特性を知っておくことが重要

イノシシやシカは、柵を跳び越えるよりも地際からのくぐり抜け。

隙間を作らず、田畑のみをきちんと一周囲う。(設置は動物目線で！)

● 柵の管理しやすい設置ルートを選択し、管理道を内外両側に設置する。

柵の点検補修や草刈作業は内外両側で必要となります。

● 柵の管理用の出入口の設置を考慮する。

総延長の長い場合はできるだけ出入口を多く設置します。



柵の内外両方を人が歩けるように設置する
< 全ての防護柵に共通 >

3 各種侵入防止柵の特徴や効果

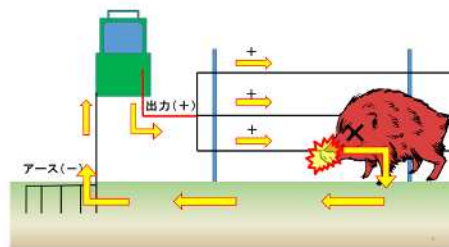
侵入防止柵の設置にあたっては、それぞれの効果や特徴、正しい設置方法を把握しておかないと、コストだけがかさみ十分な効果が期待できません。おおまかな特徴と注意点は以下のとおりです。

電気柵

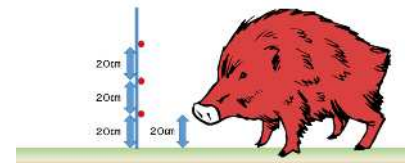
< 特徴と効果 >

高電圧の電気に触れさせることショックを与え動物を追い払う「心理柵」です。動物がさく線に触れると地面(土)を通して電気が流れます。

必ず専用の「電気さく用電源装置」を使用します。家庭用電源から直接電気を供給することは絶対にしない。



イノシシ、シカでは電柵線は20cm間隔で設置します。イノシシは2段、シカは5段以上。ただし、雑草などによる漏電に注意が必要です。

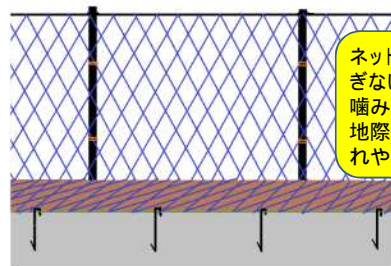


ネット柵

< 特徴と効果 >

柵の中に入る際の煩わしさで侵入を阻止しようとする柵です。

効果を高めるには、網目が「縦のひし型」になるようにゆったりと張る、地際にもゆとりを持って、隙間を絶対に作らない、目合いは、なるべく10cm以下のものを使用する、ことがポイントです。



シカ用ネットの設置事例

金網柵・ワイヤーメッシュ柵

< 特徴と効果 >

柵そのものの強度で侵入を阻止する柵です。近年、県内各地で補助事業等での導入が進んでいます。

ただし、決して完璧なものではなく、頑強な柵との思いから安心して管理が疎かになりがちですので、その点には注意が必要です。



ワイヤーメッシュ柵の設置事例



サル対策を兼ねた電気柵との複合柵

トタン柵

< 特徴と効果 >

柵の中のエサの存在状況や安全かどうかを目で確認できないことで侵入行動を起こさせないという柵です。

効果を高めるには、隙間無く設置する、イノシシに持ち上げられないようにしっかり支柱にトタン板を固定する、ことがポイントです。



トタン柵の設置事例

その他の柵

ネット柵と電気柵の複合柵

ハウスの廃材の鉄パイプで骨格を作り、防風ネットを張り、さらに弾性ポールを追加し電柵線を張ることで、安価で複数の動物に対応した柵が作れます。あり合わせの資材を工夫して補強したり、改善を加え柵を成長させていくことが大切です。



あり合わせの資材で作った複合柵